

# 差別は「する」もの…?

## —構造としての差別—



めやす

90分

時間

動き(プログラムの流れ)

ポイント

トータル時間

アクティビティなどの時間

### ねらい

- ①差別を個人の行為としてのみとらえるのではなく、社会の構造としてとらえ、すべての人にとって取り組むべき課題であることを理解する。
- ②意識や気持ちのあり方など、内面に焦点を当てただけでは差別解消は困難であることを理解し、具体的な場面を想定した学習を通して、現実に実行可能な行動の選択肢を増やす。
- ③自らが変化することによって、社会をより良いものに変えることができる、という、肯定的で効力感をもった社会への見方・関わり方をめざす。

### キーワード

構造的差別、中立、責任

### 流れ(時間配分も含む)

スタート

5分

## 1 ねらいと進め方の説明

今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、答えがあらかじめ決まっているのではなく、参加者のみなさんがやりとりしながら、考えを深めていく学び方です。

人権というと、難しく思われる方も多いかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。

正解があるわけではありません。皆さんには、普段の言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただければと思います。

そのために、3つ、お願いがあります。この場では、「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。「協力」とは、おたがいに学ぶために協力しあいましょう、ということ。「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)、ということです。

### 会場の設定

会場の形はイスのみ半円形(68ページ参照)

●「協力」「尊重」「守秘」と板書する。

### 導入

5分

25分

## 2 ウォーミングアップ

**[意識するのはどんなとき?]**

5分

**[設営とペアワーク]**

では、さっそく輪になって座ってください。

●時間があれば、輪になるのに、「誕生日順」「名前の五十音順」など工夫をするとよい。

1人おきに、内側に入ってください、向かい合った内外に二重の輪になって、向かい側の人とペアになってください。

これから、ペアで1分ずつ、話し手と聴き手を交代しておしゃべりしていただきます。これから挙げるテーマについて、日ごろどのくらい意識しているか、意識するのはどんな時かを話してください。

15分

**1つのテーマごとに席をずらし、ペアの相手を変える。内側・外側のどちらが先に話すかも指示する。**

#### テーマ例

- 「肩のコリ具合」
- 「天気予報」
- 「空気」
- 「自分の納税額／社会保険料」
- 「地球温暖化」

5分

#### 【ふりかえり】

話してみて気づいたこと・感じたことはありますか？  
何かを意識するかどうかの境目はどういったところにあるのでしょうか？  
意識したことにはどのように対応していますか？

**(参加者から出た意見を適宜、板書する)**

では、「人権」や「差別」について意識することはありますか？  
意識するのはどんなときでしょうか？  
これから、状況カードを使って考えてみましょう。

## メイン

30分

40分

### 3 個人の行動と社会の構造

10分

#### 【設営と説明】

では、ペアが2つ集まって、4人のグループを作り、グループごとに机を出して座ってください。紙とマーカーをお配りします。

**紙とマーカーを各グループに配付する。座標軸を板書する。**

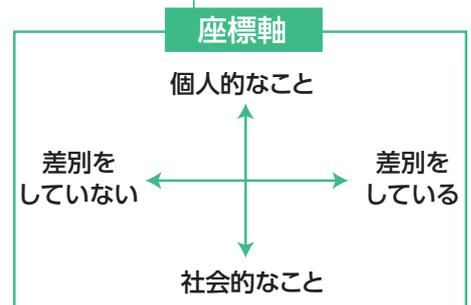
これから「状況カード」を配ります。カードには、ある行動が書いてあるのですが、その人個人の行動は「差別をしている」と言えるでしょうか、「していない」と言えるでしょうか。また、その人の行動は「個人的」なことでしょうか。「社会的」なことでしょうか。グループで話し合っ、紙に座標軸を書いてカードを配置してみてください。

**ホワイトボードに座標軸を書く。板書した座標軸を紙に書き写してもらう。**

始めにも言いましたが、正解はありません。グ

- 雰囲気がほぐれてきたら、1分交代ではなく、2人で2分間自由に話す、というやり方にきりかえてもよい。
- テーマは、時間や参加者のようすに合わせて選ぶとよい。意識するかどうか差がある項目がある方があとの展開にもつなげやすい。
- 「空気」については、「呼吸している空気」「場の空気」など、参加者が解釈した意味でよい。
- 「納税額／社会保険料」の具体的な額を話す必要はない。税や社会保障など、私たちの生活に不可欠ではあるが複雑で実感しにくい社会の仕組みをどう意識しているのか問いかけるためにテーマの項目として入れている。
- 「自分に影響のあること」「不都合を感じていること」について意識する、という意見がよくでる。

- 「住むところを選ぶときに…」編・「車で車椅子の人と出会ったときに…」編の2種類あるので、グループごとに分けるか、どちらか1つにするかはファシリテーターが決める。
- 白紙のカードにファシリテーターが考えた項目を追加してもよい。



ループで意見がまとまらないときは、どういった点で議論になったかを後で教えてください。どのような話をされているのか、私も会場を回って、聞かせていただきます。

「状況カード」を各グループに配付する。

10分

### 【グループ討議】

グループ討議を行う。

15分

### 【発表と共有】

では、グループでの話し合いの結果を1分程度で発表してください。特に意見が分かれたのはどの項目でしょうか？ どういった意見の違いがありましたか？ また、やってみて気づいたこと・感じたことはありますか。普段、「差別をする」というときにイメージしている事柄と、今回の分類とはどのような違いがありましたか。

5分

### 【コメント】

「差別をする」という言い方があります。「する」に対して「しない」と考えると、多くの人は「しない」でしょうし、そうであることは大切です。「する」に対して「される」と考えると、「自分はされたことはない」という人も多いでしょう。そうすると、「自分は差別を「しない」し、ましてや「される」ことはないから、差別とは関係ないというように思いがちです。けれど、私たちの暮らす社会には、現実に差別があります。本当に差別と関係なく過ごすことは可能なのでしょうか。「問題の一部になるのではなく、解決の一部に」という言葉があります。社会に差別という問題があるのですから、その社会の一員である私たちのあり方には、「差別のある社会を容認する」(問題の一部)か、「差別を解決すべく社会に働きかける」(解決の一部)、のいずれかとなります。「差別は自分と関係ない」という言い方は、差別のある社会を(肯定しているわけではないにせよ)容認してしまう危うさがあります。差別を「個人の行動」としてのみとらえるのではなく、「社会のあり方」としてとらえること、差別した人が反省するだけではなく、より良い社会にするためにすべての人にできることがある、ととらえることが大切なのではないでしょうか。

●参加者が話し合いに慣れていない場合には、グループの中での役割分担を設定するとよい。具体的には、22ページの③4の説明を参照。

●話し合いの間は、グループを回って、どのような意見が出ているかを確認する。

●分類が早く終わったグループには、座標軸のあいているスペースに項目を入れるとしたらどんなものが入るか、考えてもらうとよい。



つなぐ

70分

23分

## 4 わたしが変わる、社会が変わる

5分

### 【説明】

では、先ほどのカードの中で、「差別をしている」に分類されたものについて、どんなことができるのか具体的に考えてみましょう。

紙を配る。表を板書する。

差別につながる行動をなくすために「始めたいこと」「やめたいこと」「変えたいこと」は何でしょうか。「個人で」できること、

●できれば、「差別をしている」中でも「社会的なこと」に分類されているものを選ぶ。

表

	個人で	社会全体で
始めたいこと		
やめたいこと		
変えたいこと		

「社会全体で」取り組みたいこと、それぞれのアプローチから考えてみましょう。お配りした紙に表を書いて、マスの中に具体的な行動を記入してみてください。

できるだけいろんなアイデアを出してみましょう。

**7分** 【グループ討議】

グループ討議を行う。

**6分** 【発表】

では、グループの半分の方、立ちあがって他のグループがどんなアイデアを出したか見に行ってください。残っている方は、見に来た人に説明してください。3分で交代します。

**5分** 【おわりに】

「差別は関係ない」「差別をしない」ということではなく、私たち一人ひとりが具体的に行動することで「差別のある社会」を考えることはできます。今、表に記入した項目を参考に、今日の学びをいかして、ぜひ、行動に踏み出してください。

終了

## 準備物

- 模造紙またはA3程度の大きめの紙 グループ数×2枚
- 状況カード グループ数分のセット ※切り離して使う
- マーカー 各グループ数本
- タイマー
- ホワイトボードとホワイトボード用マーカー